

利休の茶の花

桑原宗典 著

二〇一六年十月刊行予定

いけばなと茶の湯

▼A5判・二〇六頁／定価：本体三、七〇〇円（税別）

ISBN 978-4-7842-1837-0

葉無花無葉之事（服部英翁『生花伝書』）

茶席では掛物と並ぶ重要な役割を持つ茶花。茶聖・千利休の生けたその花とは、どのような花だったのか――

現代ではそれぞれ独立したものと語られる「いけばな」と「茶花」。その成立過程をさかのぼることで、両者の根源にある共通性を明らかにし、いけばなが利休に与えた影響と、その花に込められていた思想を探る。

また、初代池坊専好と利休との交流を、本書が初めての翻刻となる『齡花集覧』所収の伝書など、それぞれの史料を精緻に比較することで描き出し、これまでほとんど論じられてこなかった利休の花の成立背景を池坊の花の流れと共に考察する。



【推薦文】

桑原宗典さんは、造形学を学んでいたころ、利休作の「竹二重切花入」と出会ったのを端緒に、「利休の茶の花」という問題に一貫して取り組んできた。この問題が実はなかなかの難問であることは、利休について関心を持つ人であれば、誰もが良く知っているはずである。

桑原さんは限られた資料のなかから、利休と初代池坊専好との関係を示す文献を見出し、丹念に独自の研究を進められた。こうした意欲的な利休研究を志す、感性の豊かな研究者の登場を歓迎したい。（林屋晴三）



くわはら・そうてん
一九六八年東京生。宝塚造形芸術大学大学院博士課程修了、博士（芸術学）。裏千家教授。

予定内容目次

第一章 生花の成立過程

一、池坊における生花の登場とその歴史的背景

――池坊専慶から二代専好まで――

池坊専慶／池坊専応／池坊専栄／池坊専好（初代）／池坊専好（二代）

二、伝書および同時代の記録からの検討

『仙伝抄』に見られる生花の風体／『専応口伝』より読み取れること／専栄が『専応口伝』に「生花の事」の項目を加えた意味／初代専好の活躍／『抛入花伝書』と『生花伝書』の関係

三、立花に対する生花の地位の確立

第二章 利休の茶の花の変化

――利休の花に関する記録より――

一、利休の花に関する諸記録からの検討

利休の花についてのもっとも古い記録――『松屋会記』／利休と白き花――『宗湛日記』／茶の花は侘び茶の思想と趣向の表現――『南方録』／茶の花の真髓――『山上宗二記』

二、池坊の生花と利休の茶の花における思想の共通性

第三章 利休と初代専好の関係

一、「古哲生花四箇伝」からの検討

谷貫室咲之事／一輪花之事／葉無花無葉之事／瓢之事

二、服部英翁『生花伝書』との比較

絵図の比較／奥書の比較／作例より読み取れる特徴

三、「齡花集覧」と『生花伝書 服部』によつて証し得ること

第四章 利休と専好にまつわる逸話

一、茶席の花

――『江岑夏書』『江岑咄之覚』『蓬源齋書』より――

白い花／竹の花入／利休と初代専好の交わり／禁花／立花と茶の花に共通する格

二、利休の人物像――『茶話指月集』より――

赤き花と牡丹／一輪の朝顔の花／紅梅の生け様／利休の審美眼

三、利休と初代専好の通い合う心

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)		
冊数	冊	利休の茶の花		本体3,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1837-0	
お名前				tel		
				e-mail		
ご住所	〒					
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎					

本書HPのQRコード

本書HPのQRコード

※華道古典名作選集 [全10巻]

花図を中心とした華道書善本（刊本）10点を忠実に複製。

流祖去風の門人藩梅子が挿花を写生した花林清賞、室町時代の華道の伝書で秘伝とその心得を秘記した仙伝抄、徳川時代遠州流に習熟した末生齊一甫により文化13年に出版された挿花百練、貞享元年刊行、抛入花の最初で後世に大きな影響を与えた抛入花伝書

松月堂古流の是心軒一露居士により天明5年に刊行された草木出生伝、池坊専純の弟子落帽堂暁山による寛延4年版の生花正意四季の友、貞享5年の刊で古形研究の資料ともいえる頭書立華指南、池坊専応口伝の花伝書・仙伝抄の上文・正阿弥の花伝を収める立花初心抄

▶A4判変・和装本／

- | | | |
|------------|---------------|-------------------|
| ①花林清賞 | 本体 6,500円(税別) | ISBN4-7842-0210-2 |
| ②仙伝抄 | 本体 4,400円(税別) | ISBN4-7842-0211-0 |
| ③挿花百練 | 本体 5,500円(税別) | ISBN4-7842-0212-9 |
| ④立華時勢粧 | 本体 7,500円(税別) | 【品切】 |
| ⑤抛入花伝書 | 本体 5,400円(税別) | ISBN4-7842-0214-5 |
| ⑥草木出生伝 | 本体 6,000円(税別) | ISBN4-7842-0215-3 |
| ⑦生け花正意四季の友 | 本体 6,000円(税別) | ISBN4-7842-0216-1 |
| ⑧頭書立華指南 | 本体 5,500円(税別) | ISBN4-7842-0217-X |
| ⑨立花初心抄 | 本体 4,900円(税別) | ISBN4-7842-0218-8 |
| ⑩新撰瓶花図彙 | 本体 5,500円(税別) | 【品切】 |

花道古書集成 [全5巻]

華道沿革研究会編

本書は、初期東山時代の代表的秘伝書をはじめ、江戸初期、中期の諸流祖の花道書から幕末に至る主な花道書を収録し、大日本華道会より昭和5年に刊行されたものの複製。貴重な文献と作例図により生花の歴史・理論・技法の真髄に触れることができる。

▶A5判・3400頁／本体 32,000円(税別)

ISBN4-7842-0087-8

花道の思想

井上治著

第一部では歴史の流れを概括しながら「出生」（草木の自然な形姿）「花矩」（人為的な意匠）「修行」（挿花を通じての求道）という観点で「花道思想の構造」を整理。

第二部では、古くから挿花と密接に結びついていた宇宙像が江戸末期に揺れ動き、それが花道思想にどのような影響を与えたかをみた後、近代の花道家が新たな社会・文化・学術的環境のなかで、花道文化の伝統とどのように向き合ったのかを「風流」と「芸術」という概念に注目して考察する。



▶四六判・260頁／本体 1,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1639-4

茶と室内デザイン

小泉和子編

日本にもたらされた喫茶文化により、室町時代の書院造、大名居館、佐び茶による草庵風茶室など、和風住宅の室内意匠がつくられた。茶が日本住宅の室内意匠にあえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。

▶B5判・224頁／本体 3,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1808-0

続花道古書集成 [全5巻]

続花道古書集成刊行会編

先の『花道古書集成』が古刊本中心であるのに対し、今回は未刊の古写本に重点をおき続篇をおくる。花道草創の室町時代初期から各流各派成立、爛熟の時期江戸時代末に至る秘伝、稀覯本を網羅し、中でも「華厳秘伝之大事」「極儀秘本大巻」「藤掛似水華伝書」「諸花抛入百瓶圖」「雲の上」などは特筆すべきである。

▶A5判・2710頁／本体 35,000円(税別)

ISBN4-7842-0088-6

※花みる心 [全2巻]

浅井敬太郎著

花卉園芸学の権威であり、美学・歴史学にも造詣深かった著者が40年にわたり「華道」「未生」「園芸新知識」「自然と盆栽」「京都園芸」等の雑誌に発表した論文・随筆を一堂に収める。そこには花卉学といけばな、理論と感覚のみごとな融合がみられる。華道・茶道・園芸・植物学を学ぶ人々に。

▶菊判・総800頁／本体 8,400円(税別)

ISBN4-7842-0205-6

※花籠と竹花入

木下桂風著

1500年の歴史をもつけばなの歴史のなかで、その器として籠と竹筒を発明したのが東山時代の芸匠で知られた相阿弥である。青竹から始まり、きんめい竹、白竹、枯竹、斑竹、煤竹、縞竹、黒竹、胡麻竹、四方竹、迎葉竹とそれぞれ特徴を生かした雅趣と伝統の美と心を豊富な挿図と共に解説する。

▶A5判・178頁／本体 2,900円(税別)

ISBN4-7842-0208-0

元伯宗旦の研究

中村静子著

「利休の孫」として知られる元伯宗旦——その生涯は病気がちで不分明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を丁寧に読み解くことで複眼的に究明する。

▶A5判・430頁／本体 7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1760-1

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会の創立20周年記念出版。

本講座は、日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあけて俯瞰する。

時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論からなりたち、さらに各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示することで、初学者にはもちろん、さらに深く茶の湯研究を志す人にとってのハンドブック的な要素ももたせる。最新の研究成果をふまえて茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 第1巻(中世) ▶四六判・328頁／本体 2,500円(税別) | ISBN978-4-7842-1696-3 |
| 第2巻(近世) ▶四六判・370頁／本体 2,500円(税別) | ISBN978-4-7842-1697-0 |
| 第3巻(近代) ▶四六判・336頁／本体 2,500円(税別) | ISBN978-4-7842-1698-7 |



インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。